

第3回ニッセイ緑の財団復興支援シンポジウム「広がり、つながれ学校の森」  
閉会の挨拶

本日は、生徒さんたちの発表ありがとうございました。皆、素晴らしい内容で本当に感激いたしました。生徒さんたちのこうした活動を指導されている先生方、活動をささえてこられたPTA、関係者の皆様のご努力に心から敬意を表します。またこのような発表の場を設けていただいた、主催者のニッセイ緑の財団に感謝申し上げます。

私ども国土緑化推進機構は、国土の緑化を進めるため、全国植樹祭といった全国的な緑化行事や緑の募金など様々な取り組みを行っていますが、次代を担う青少年の健全な育成の観点から、「緑の少年団」の育成や学校林の活用の推進に取り組んできています。しかしながら、現状を小学校で見てもみると、こうした活動を行っている学校は全体の16%に過ぎない状況にあり、残りの学校にいかにも広めていくのが大きな課題となっています。

昨年11月、ご案内の通り、「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を締めくくるユネスコの世界会議が名古屋で開催され、ESDの更なる拡大を求めた「あいち・なごや」宣言を採択されました。森林は、生物などの環境的な事からはもちろん、木材などを通じた経済的な問題、さらには地球温暖化、生物多様性などグローバルな問題にも関連しています。したがって、森林を活用することにより、教科横断的、総合的な学習活動が可能です。また、子どもたちの発達段階に合わせ、感じる一調べる一考えるといった段階的な学習も可能です。つまり、森林はESDの実践にとって最適な題材、場であり、今後ESDを推進していくため、森林が大いに活用されるべきと考えているところです。

本日の生徒さんたちの発表、そして、その後の皆さま方の議論をお聞きしまして、皆様方はまさに森林を活用したESDを実践しており、そのための工夫と努力の一端を知ることができました。森林を活用していくことにとって先生方のお力とともに地域の人たちなど関係者の方々との連携がいかにも大事かということも再認識しました。国土緑化推進機構では、現在、「森林ESD研究会」を立ち上げ、学校教育における森林活用の推進方策について検討しているところであり、分科会での議論は大いに参考になりました。

今回のシンポジウムを契機に皆様方の取り組みがさらに発展するとともに、新たに多くの学校が森を活用した取り組みを開始していくことを期待しますが、そのためには、今回のシンポジウムで知り合った学校同士、さらにはその他の学校との交流が促進されていくことが重要と考えます。その意味では、昨年、全国の学校が森を活用した取り組みを学ぶ合うなど情報交換ができる場として、「ニッセイ緑の財団」により立ち上げられた「学校の森フォーラム」は非常に有効な手段のひとつではないかと思えます。今後、このフォーラムが大いに活用されますことを期待いたします。

本日は、発表、意見交換にご参加いただき、本当にありがとうございました。改めて学校教育の現場で森を活用した取り組みが大いに広がっていくことを祈念して、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。